

平成27年度 第2回 鹿沼市環境審議会 会議録

委員	鈴木 (節)	鈴木 (章)	竹 之 内	楠	五 月 女	横 尾	松 山	小 池	蓬 田	那 珂	大 島	木 村	櫻 井	福 田	渡 邊
出 欠	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	欠	○	欠	○	○	○

事務局 石塚環境部長、石川環境課長、鈴木放射能対策室長、田中清掃課長、
青木下水道課長、中村下水道施設課長、中村総務係長、金子環境保全係長、
柏熊主査、後藤主査、金子主査、笹川主事

1 開 会 (1 3 : 4 5)

2 会長・副会長の選出について

横尾委員 今までの経験のある方が良いと思う。前会長、前副会長に引き続きお願いしてはどうか。

(全委員異議なし。)

石塚部長 会長を鈴木節也委員、副会長を鈴木章世委員にお願いする。

3 会長あいさつ

4 諮 問

5 議 題

(1) 報告事項

ア 「かぬまの環境」平成26年度 環境基本計画等の実績について

*事務局(石川環境課長)説明

楠委員 25ページの「基幹的設備改良工事」、昨年川崎重工業に32億円の発注をしているが、この件に関しての市民の理解がないように思う。これだけの金額の必要性の説明が不足しているのではないか？また、現状の焼却炉での処理能力が1日177トン、改良工事後の能力も1日177トンで、横ばいである。3Rによるごみ減量をして、焼却炉の規模を縮小しておけばよかったのではないか？焼却炉の負担を少なくするという基本的な考えが弱かったのではないか？

事務局(田中清掃課長) 現在稼働しているごみ焼却処理施設は平成6年9月に竣工した。ごみ焼却処理施設の耐用年数は15年であり本市の施設はすでに20年が経過し老朽化の進行と共に修繕等経費が年々嵩んでいる状況にある。そのような中、平成25年3月に「環境クリーンセンター長寿命化計画」を策定し、焼却炉をこ

のまま定期整備により対応していくのか、新炉を建設するのか、または延命化工事を行うかを検討した。その中で、今後15年焼却炉を使用した場合におけるライフサイクルコスト等を検証した結果、延命化工事を行った場合が最も費用負担が少ないため、基幹的設備改良工事を行うこととした。

また、延命化工事は環境省の「循環型社会形成推進交付金」補助率2分の1を受けて行うため、また残りの部分も交付税の措置を受けているため、6割程度が市の負担ではない。他と比較して最も自己負担が少ないものとなっている。ただ、交付金の交付条件として、施設の二酸化炭素の排出量をこれまでの20%以上削減することが必要であるため、重油使用量、電気使用量を削減するために、廃熱利用による発電機の設置、高効率電動機の採用や施設の運転時間を16時間から24時間連続運転とした。施設内利用の為の発電で、施設にあまり手を加えないでできる発電機を設置した。

また、説明が足りなかったのではないかについては、平成25年から市議会の一般質問が出されその都度説明し、地元自治会にも説明会を行い理解を得てきた。処理能力については、今までの59トン処理の炉を3炉から、24時間運転により88.5トン処理の炉を2炉とし、結果177トンの処理能力に変わりはない。

発電については、交付用件に二酸化炭素の削減があったため、小型蒸気発電機を設置し、売電目的ではなく、施設内で使用する電気の10～15パーセントの量の電気が作られる。そのための廃熱利用である。鹿沼市の一般廃棄物処理基本計画に定めているごみの減量化についてはこれまでどおり推進していく。ごみ焼却量が減った場合は、焼却炉の運転を停止するという事で、運転時間の調整により、減量化、資源化をすすめていきたい。

(他に質疑等なし)

報告事項アについては了解とする

イ 第4次鹿沼市環境基本計画の策定等について

*事務局(柏熊主査)説明

楠委員 アンケート問5(3ページ)について、市として再生可能エネルギー利用率のデータはあるか。第4次基本計画で数値目標を掲げる可能性はあるか。

事務局(柏熊主査) 家庭の太陽光発電の導入数については、補助実績にもとづいた数値で把握をしている。平成26年度は207件の補助を実施し、計1,519基となった。第3次基本計画においては、家庭用太陽光発電導入支援の目標を掲げている。第3次では太陽光発電だが、第4次基本計画においては、対象となる再生可能エネルギーの種類やどのような数値目標

とするかも含めて、審議会のなかで委員のみなさまのご意見をお聞きしながら決めていきたいと考えている。

楠 委員 国においては、国全体の再生可能エネルギー利用率を決めている。鹿沼市においても、民間事業所の再生可能エネルギー利用率の目標を決めてやった方が良くと思う。

事務局（柏熊主査） そのようにしたいと思う。

楠 委員 アンケート問 8（5 ページ）再生可能エネルギー利用促進のための条例の制定について、2011年3月の東日本大震災以降、再生可能エネルギー基本条例の制定が進んでいる。現在、36の自治体で制定されている。鹿沼市でも、環境条例の制定から現在までに地球温暖化などの状況も変わってきていると思われるので、これから基本条例制定を審議会でも検討していくと良いと思う。参考になるのは、滋賀県湖南市、長野県飯田市、兵庫県宝塚市の基本条例である。

事務局（石川課長） 太陽光や風力、水力、バイオマス等の再生可能エネルギーについては、CO₂をほとんど排出しない優れたエネルギーと考えている。鹿沼市では第3次環境基本計画、地球温暖化対策地域推進計画に、再生可能エネルギーの利用促進を位置づけ、家庭用の太陽光発電設置に対する支援、大規模太陽光発電施設設置補助などの事業を実施してきた。再生可能エネルギー利用促進の条例について、滋賀県湖南市、長野県飯田市、兵庫県宝塚市の情報はこちらでも聞いている。前回の市議会でも議員から質問が提出された。本件については、第4次環境基本計画の策定のなかで、検討していきたいと考えている。

小池委員 資料1（P3）で鹿沼市に優先して取り組んで欲しい環境問題のトップにある「空き家対策」について、市民は空き家の何が問題と考えているのか、例えば、見た目、景観上の問題か、害虫が発生する問題か、倒壊による事故発生か又は治安上の問題か、市として具体的に把握しているか。尚、市では、現在、空き家対策の条例に基づく指導をしているようだが、具体的にどういう点が問題となり何件指導し、そのうち何件が指導に従ったか。

事務局（柏熊主査） 市民は空き家の何が問題と考えているのかについて、これまでに相談された事例を参考に分析すると、雑草や樹木等の繁茂による隣地や道路への木の枝の越境、雑草が繁茂した後の枯れ草となったところにタ

バコ^①の投げ捨てによる火災の発生の恐れ、建物の屋根材等（トタン）の飛散の恐れがある等の相談を多く受けている。市としては、近隣住民や周辺道路の通行人、車両への被害等（事故）が発生しないよう対策に取り組んでいる状況である。

市では、平成25年6月1日から「鹿沼市空き家等の適正管理に関する条例」を施行し、所有者・管理者に対して空き家等が管理不全な状態になることを未然に防止するために助言・指導をしている。

条例施行から現在（10月末）までの累計で、223件の情報提供があった。問題要因としては、雑草等の繁茂が全体の約40%を占め、次いで建物破損が約30%、樹木等の侵入が約10%、**ごみ**の放置、工作物破損等の内容で相談を受けている。その中で条例第7条に基づき指導等の対象になった件数は24件、そのうち問題解消に至った件数は11件である。

現在、市では、市内全域の空き家等の実態を把握するために、自治会の協力を得て、平成26年度から中山間地域を中心に実態調査を始め、利活用可能な空き家、老朽危険空き家等に分類し、所有者等に対して、啓発活動を行い、併せて利活用可能な物件については、空き家バンクへの登録を推進している。平成28年度中には「鹿沼市空き家等対策計画（仮称）」を策定し、空き家等に対する対策を総合的かつ計画的に取り組んでいく。

（他に質疑等なし）

報告事項イについては了解とする。

ウ 環境クリーンセンター基幹的設備改良工事の進捗状況と今後の工事予定について

*事務局（田中清掃課長）説明

楠 委員 発電施設を作ることにより国の交付金が受けられることについて、発電施設の発電効率が23パーセント以上が交付対象ということだが、鹿沼市では何パーセントか？

また、基幹的設備改良事業の計画事例ということで、鹿沼市の事業を川崎重工が1月21～23日沼津市で行われた全国都市清掃研究事例発表会で発表していた。その時の資料があれば、提出していただきたい。

事務局（田中清掃課長） 発電による削減率については、今回の交付条件は20%以上の削減を行ったとき二分の一交付が受けられるのだが、今回、電気使用量削減と燃料使用量削減を合わせて40%以上の削減効果を見込んでいる。また、川崎重工の発表事例の資料はこちらには届いていない。探して

みて、あったら提出する。

横尾委員 工事は平成28年3月に完了するという事か？

事務局（田中清掃課長） 平成28年3月までに全部の引き渡しを受ける予定。
工程は順調に遅れなく進んでいる。

（他に質疑等なし）

報告事項ウについては了解とする。

（2）その他

楠委員 「かぬまの環境」22ページの、山間地の放射能汚染調査について、山地は平地と違い樹木の枝、葉、枯葉、落ち葉など放射性物質が保持されやすい条件がある。山間地、例えば栗野地区の放射能汚染を調査したデータはあるか？もしなければ、汚染しやすいところの情報を「かぬま環境」に載せたほうが良いと思う。

事務局（鈴木放射能対策室長） 市で調査しているのは、1キロメッシュ、鹿沼市では322の地点で、道路沿い、車で行ける場所を測ったデータはあるが、栗野の山間部についてのデータは無い。

事務局（柏熊主査） 「かぬまの環境」への掲載については、来年度作成する際に掲載したいと考えている。

事務局（金子環境保全係長） 12月5日、鹿沼市環境活動推進会議と鹿沼市の共催により、環境講演会を開催する。鹿沼市民文化センター小ホールにて午後1時開場、1時30分開演。講師は気象予報士の平井信行氏。演題は「自然環境と地球の未来」、昨今の異常気象の避難の内容も話していただく予定。ぜひ、ご来場を。

事務局（中村総務係長） 次回の第3回審議会は、平成28年2月15日（月）午後2時からを予定している。内容は、第4次環境基本計画の骨子案の審議。本日、第3次鹿沼市環境基本計画と地球温暖化対策地域推進計画を配布したので、第4次環境基本計画策定の際に参考にさせていただきたい。

6 閉会（午後3時1分）